

職親会だより

2010.3 第25号

※ 職親会(兵庫県精神保健職親会)は、精神障害者の就労を支援する事業主の会です。

【目次】	《職場探訪》姫路市 サポートセンターれいめい	P1
	《報告 ①》西播磨地区 就労支援地域研修会 (IN 龍野)	P2
	《報告 ②》地域移行支援・就労支援研修会	P4

《職場探訪》のコーナーでは、社適訓練を利用し、就労を目指されている皆様からの就労に対する思いやメッセージを交えてお届けします。また、研修会の報告も行っています。是非ご一読下さい!!

職場探訪

姫路市 サポートセンターれいめい

姫路市でヘルパー派遣を行っている「サポートセンターれいめい」に伺いました。この事業所は4年半程前、病院デイケアのスタッフより相談があり、職親となりました。現在も3名の社適利用者がおられ、社適終了後もステップアップ雇用等を利用し、就労支援に尽力されています。今回は、事業主の野村さんとともに、訓練生や訓練を終了された皆様にもお話を伺ってきました。



ホームヘルパーの利用者さんを囲んで

(福永さん) 介護の仕事をしていたこともあり、デイケアスタッフより「れいめい」を紹介された。最後の3ヶ月間「雇用指向型」を利用し、現在はステップアップ雇用を利用している。雇用指向型になって、働くことをより意識するようになった。

訓練中はしんどいこともあり、辞めたいと思うこともあった。家族の期待の大きさにつぶされそうになることもあった。野村さんが家族との間に入って来て、今は一人暮らしをしている。両親の愛情は感じている。いずれはもっと働いて親の面倒を見たいと思っている。

生きていればいつか助けてくれる人に出会える。

(赤藤さん) 現在、社適利用2年半。デイケアに通っていたが、周りの友達が社適を利用しているのを見てやってみようと思った。中断しかけたこともあったが、周りの友人に相談し、後押ししてもらって、復帰することができ、結果、現在も続けられている。

辛いとき、友人にすごく助けられた。困ったときまわりに相談出来る人がいたことが良かった。

(Hさん) 社適を利用後「精神障害者率先雇用事業」を利用。半年間だったが県の機関で「健康な人の中で働く」ということは大変意義があった。叱られるという経験は貴重。厳しい環境で働く中で、働いている両親に対しての感謝の気持ちも持つことができた。

「れいめい」から出ることは、はじめは不安だったが、今は別の事業所に行っている。将来はヘルパーの仕事をやっていきたい。今は目標があり、それがあから頑張れる。

チャレンジしてみよう。でもゆっくりと。社会の空気に触れることは貴重な経験になる。低速走行でできることをやっていきたい。

(大塚さん) 社適を始めて半年。自身も身体に障害があり、ヘルパーを利用している。「なのにヘルパーが務まるのか？」と言われたこともあるが、野村さんからは「あなただからできることがある。」と言われた。れいめいに来るまでは引き籠もっていたので、今はまだ体慣らしの段階だが、**訓練を通じてもっと行動的になりたいと思っている。**

(高橋さん) 働きたくてハローワークに行ったがフルタイムで働けないと雇ってもらえなかった。社適は一週間に一時間から始め、段階的に時間を増やしていくことができた。

希望を持ってください。働くことを諦めずに思い続けてほしい。

《野村さん》 訓練のなかで、厳しいところをあえて見てもらうようにしている。大切なのは過程を経験すること。また失敗することも貴重な経験。「失敗させない」だけの支援ではいけない。失敗するチャンスを与えてあげることに意味がある。

訓練生には夢を持ってもらいたい。『働くこと』は夢ではなく、それをかなえるための手段。訓練を続けていくことで皆変わっていく。しかしそれを『成長』とは思っていない。もともとあるものが戻ってきた。それを再確認できたという感覚。

～ 利用者さんの生き活きとした姿に、「働くこと」の意味と、事業主さんには暖かさとしさの両方が必要だと改めて感じさせられた訪問となりました。～

報告①

西播磨地区 就労支援地域研修会 (IN 龍野)

前号でご紹介しました7月の研修会に引き続き10月と2月に西播磨で地域研修会を行いました。

10月 研修会

講師からの発言

「精神障害があっても働ける！支援・定着のコツと実態」

○北岡祐子氏 (就労移行支援事業所「社会就労センター創C. A. C」精神保健福祉士)

- ・ 就職を希望する人は多い。働くことによって、職場の中で育てられる。「ありがとう」と言われたり、誰かの役に立っているということで心理的満足を得られる。
- ・ 「就労の意欲があること」「目的を持って訓練を受けること」が必要。
- ・ 働きながら訓練するのが有効と言われている。
- ・ 求められるのは複雑なことではなく、あいさつができる等、社会人の基本的なマナー。「爪を切っているか？」等具体的なマニュアルを。

○貞丸けい子氏 (ハローワーク灘 精神障害者ジョブサポーター 精神保健福祉士)

- ・ 雇用に関して、身体障害者、知的障害者に比べても、精神障害者は課題が多いのが現状。
- ・ 「グループでやってみる。」という方法は有効。複数のローテーションを組み合わせる。
- ・ 実際の職場を見ることが、本人の働くイメージと事業所の望むイメージをマッチングさせる。
- ・ 働き口を見つけることも必要だが働き続けることの手助けをして欲しい。

～他にハローワーク龍野の藤本雅子就職促進指導官より雇用支援施策について説明いただきました。～

職親からの発言

訓練生を受け入れるにあたって工夫した点は「何をしてもらうか？」ということ。車の整備は免許が必要なので無理だったが、ガソリンスタンドでバイトしていた経験があるということで、手洗い洗車をしてもらうことにした。訓練生を受け入れて5ヶ月たち、今では洗車の担当者が休んでも、後でチェックをすることで一人でも任せられるようになった。職場に同世代の人が3～4人おり、うまくコミュニケーションもとりながら頑張っておられる。(新和自動車 後藤尚弘工場長)



社適で訓練中の訓練生からの発言

Q 社適を始めるきっかけは？

- A ・調理の仕事がしたかったので保健所から聞いてチャレンジしてみようと思った。
・ブランクがありはじめはとても不安だったので社適から始めてみようと思った。

Q 自分なりにこころがけていること、がんばっていることは？

- A ・あいさつをきちんとすること。任されたことはきっちりやるということ。
・最後までやり続けること。まずは半年間休まずに行くことが目標。

Q 仕事をして楽しかったことは？

- A ・コミュニケーションが広がっていった。少しずつ仕事を任せてもらえるようになった。
・利用者に「ありがとう」と言われたとき。職員が優しく声をかけてくれたとき。

2月 交流会

☆助言者に兵庫障害者職業センターのリワークカウンセラー、香木明美さんをお招きし交流会を行いました。職親を中心に西播磨就業・生活支援センターからもご出席いただきました。

○作業だけではなく、朝礼などにも訓練生が参加してもらっても良いものか？

- 社適は作業だけでなくコミュニケーションなどを学ぶ場でもある。人によってはそれが大きな負担になる人もいるので、一言喋る場面などがあるのならば「パスもあり。」とする、見学として参加してもらうなどの配慮があれば、本人と話し合ったうえで参加を考えてみるのも良い。

○自己評価が高く、訓練中に途中で帰ってしまったり、「就労は無理ではないかな？」と思う時もある。本人のためにもこのまま社適を続けるよりも一度中断した方が良いのかな？とも思う。

- 途中で帰ってしまう等の行動は、社会のルールとしてフィードバックできるのではないかな。社適は何度でも利用できるもので、一度中断することもひとつの方法だと思う。その時は本人や家族に対して、何故今終了させるのかの理由を、きっちりとフィードバックする必要がある。事業所だけでは困難なので、保健所や支援機関とも相談を。

○本人が考える作業能力と周りから見た作業能力に差がある。作業内容や時間の増減のタイミングはどのように考えれば良いか？

- 訓練時間の増減や訓練内容は本人とよく話し合っ決めていくこと。こちらの一方的な提案にならないように常に注意を。そのあたりは、支援機関が連携して見極めを。また、はじめに『目標』を定めておく。スモールステップをひとつずつ目指していくことも必要。時間も内容もできるところから。

- ・精神障害者にとって、曖昧な指示は難しい。チェック項目表のように、ひとつひとつ目で確認できるものは効果的。作業内容がマニュアル化されているところもあると思うので、そういうものがあれば活用を。マニュアルがない場合でも、複数の職員が統一した対応を行うことは大切。

- ・兵庫県は全国一の社適の事業所数と稼働数。一方で事業所数の割に訓練生が少ない。①保健所だけでなく就業・生活支援センターやハローワークから社適につなぐといった連携を増やしていくこと②清掃・造園等の事業所だけでなく事務作業などの異なった事業所の開拓③社適開始時から多機関が関わっていくこと、などが今後の課題としては重要。

《西播磨でのネットワーク作りに取り組まれている NPO 法人いねいぶる 宮崎宏興さんより》

西播磨圏域では、数年前より新規に協力事業所となってくださる企業が多くなり、現在は、48 箇所にもまで増加しています。そのため、初めて訓練生を受け入れてくださっている事業所も多く、試行錯誤の段階でもあると言えます。そこで、協力事業所同士がより意見交換ができる機会が増えることを願って、年数回の協力事業所交流会を開催していく運びとなりました。平成 21 年度は、3 度開催し、新しく協力事業所になってくださった担当者の方などとも、積極的な意見交換を行うことができました。今後も、協力事業所同士のネットワークおよび各関係機関との交流の機会となるよう活動していきたいと思ひます。

報告② 地域移行支援・就労支援研修会

12月に開催した研修会では『NPO 法人十勝障がい者支援センター』理事長の門屋充郎さんを講師にお招きし、100名を越す支援者の方々が参加されました。

門屋さんには、北海道帯広市を中心に、十勝地域の資源の開拓やネットワークづくりを先駆的に実践してこられたこれまでの経験や活動をもとに、生の声をお聞かせいただきました。

ソーシャルワーカーとは…

ソーシャルワーカーは、人の『幸せな生活』を応援する専門職。本人の主体性を重視し、社会背景を考え、幸せになる方法を本人と探る。一人でできないことは協力し合って。自分がやろうとしていることを応援してもらえるように働きかける工夫が必要である。



生活の場を地域に

生活の場は病院ではなく地域。退院できない理由として「退院先がない」「家庭の事情がある」などよく言われるが、「ならばどうやって退院させるか？」を考えるのが専門職。生活のリズムが狂ってしまい、朝起きることができないという話も聞くと、それは行く所がないから。日課があれば朝起きようになる。これからは地域生活支援が基本となる。入所や入院では、24時間すべての支援が施設で包括されていたが、それを地域の社会資源で支えないといけない。住居、日課、就労、余暇などの相談支援体制を確立し、自立支援協議会で官民が協働し、個別支援課題から地域課題の解決をしていく必要がある。障害者専用の生活資源が必要なのではない。当たり前の生活資源と、良質な精神医療があれば再発を予防しながら地域で暮らし続けることは可能である。

門屋さん自身の思い・活動

1市16町2村からなる帯広・十勝圏域は周辺を山に囲まれており、外の病院へ行きにくい。圏域内でも、1日ばかりでないと通院できないようなところもある。通院や服薬の中断は病気の再発につながるため、保健師に訪問してもらうなど、必要なことは、法律が整備される前から取り組んできた。地域生活を支援するにあたって、生活資源の開発、人材確保と育成、多機関・多職種連携作りなどが必要との思いから1991年に帯広ケア・センターを開設した。

また、退院後に住居がないという問題があったことから、制度がない時代の下宿屋から始め、共同住居、グループホーム、管理住居などを作ってきた。住居さえあれば地元や家族のところへの退院が困難であっても何とかなる。

今までの私の40年間を振り返ると、現実には愕然とするほど変わっていない。私が出会ったほんの一部の人の小さな自由のために活動してきたが、私のやってきたのは過去の後始末だけ。しかし今からやれることは色々ある。今だからできることもある。そのチャンスを逃さないようにしている。

兵庫県精神保健職親会 会員及び賛助会員 募集中

会 員	(社適事業所に限る)	年会費3,000円	を募集しております。
賛助会員	(団 体)	年会費3,000円	
賛助会員	(個 人)	年会費1,000円	

【事務局】 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-3-2

兵庫県精神保健職親会 (県立精神保健福祉センター内)

Tel078-252-4980 Fax078-252-4981

お問い合わせや、ご賛同いただける場合は、上記事務局までご連絡下さい。